

南小樽地区 ブロック別学校再編プランの 検討のために

この資料は、地区別懇談会で参加者間の活発な意見交換ができるようにという観点で作成したものです。

ブロックの概要

町名

住ノ江、住吉町、有幌町、信香町、若松、奥沢、天神、
真栄、潮見台、新富町、勝納町、若竹町、築港

通学区域から見た現在の学校配置

小学校 量徳小学校、奥沢小学校、天神小学校、潮見台小学校、若竹小学校
中学校 向陽中学校、潮見台中学校

町別学齢人口（27年度推計）

（人）

	小学生							中学生			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	1年生	2年生	3年生	小計
住ノ江	6	1	4	4	7	1	23	9	4	7	20
住吉町	7	9	9	4	7	9	45	8	9	7	24
有幌町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
信香町	4	3	1	2	2	1	13	7	0	3	10
若松	2	3	7	3	5	5	25	7	4	5	16
奥沢	33	36	32	30	41	38	210	29	37	25	91
天神	5	8	11	14	12	7	57	15	18	17	50
真栄	5	7	4	9	1	6	32	7	9	2	18
潮見台	11	7	10	9	16	5	58	6	10	6	22
新富町	7	5	2	4	4	7	29	4	3	7	14
勝納町	6	6	7	6	10	8	43	10	9	10	29
若竹町	17	14	24	17	21	17	110	21	21	27	69
築港	8	10	6	5	5	6	40	3	5	2	10
計	111	109	117	107	131	110	685	126	129	118	373

小樽市小中学校再編計画では、学校再編に当たっては次のとおりに進めるとしました。（抜粋）

- ◆ 統合の時期は、学校施設の状況、対象校の位置関係、統合前の児童生徒の交流期間等を総合的に考慮し、地区実施計画を策定し決めていきます。その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。
- ◆ 統合学校は、原則として、既存の学校敷地、校舎を活用していくこととし、校舎が近年、改修・建て替えをしている場合を除き、大規模改修・建て替え時に合わせた施設設備の充実を図ることを基本とします。
- ◆ 統合学校の場所は、統合後の通学区域内のバランスと、校地・校舎の状況や通学上の安全などの条件を勘案して決定します。その際には、交通の利便性や冬期における周辺の除雪体制など、学校立地の条件としてより良好な環境であるかの観点も考慮します。
- ◆ 特別支援学級などについては、統合する時点での学級を確保し、統合学校に引き続き設置します。また、支援を必要とする児童生徒が新たに入学する場合は、原則として再編後の校区内の学校に就学できるよう配慮します。
- ◆ 学校再編に伴い、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在學生についても、交友関係や通学距離などを考慮した特例を設け、指定校変更の承認をするなど学校指定に関する弾力的な運用を行います。

小学校の概要

各項目の数値は平成 21 年度現在のものです。

		量徳小学校	奥沢小学校	天神小学校	潮見台小学校	若竹小学校
学校の規模等						
児童数	通常	155 人	124 人	184 人	178 人	147 人
	特別支援	2 人	4 人	4 人	1 人	3 人
学級数	通常	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級
	特別支援	2 学級	2 学級	3 学級	1 学級	3 学級
開校年月		明治 6 年 9 月	明治 32 年 10 月	昭和 9 年 1 月	明治 34 年 4 月	大正 15 年 12 月
学校施設						
現校舎の建築年 (面積)		昭 36 (2120 m ²)	昭 51 (1888 m ²)	昭 54 (4135 m ²)	昭 56 (2264 m ²)	昭 47 (3030 m ²)
		昭 50 (2904 m ²)	昭 52 (1920 m ²)		昭 57 (2823 m ²)	昭 55 (221 m ²)
耐震化優先度 (校舎)		①-4、②-2	②-1	③-1	③-2	③-1、⑤-1
保有教室の内訳 (普通教室には学級 増で転用想定も含む)		普通 16 教室	普通 12 教室	普通 14 教室	普通 16 教室	普通 10 教室
		特別 8 教室	特別 8 教室	特別 8 教室	特別 10 教室	特別 7 教室
体育館面積 m ²		876 m ²	756 m ²	855 m ²	997 m ²	615 m ²
グラウンド実面積 m ²		4,500 m ²	3,600 m ²	3,000 m ²	3,500 m ²	3,000 m ²
通学環境						
隣接校との距離 (km)		潮見台小 (0.9)	入船小 (0.9)	奥沢小 (1.5)	量徳小 (0.9)	桜小 (1.3)
		花園小 (1.3)	天神小 (1.5)	入船小 (1.7)	若竹小 (1.6)	潮見台小 (1.6)
		奥沢小 (1.5)	量徳小 (1.5)	最上小 (2.3)	奥沢小 (1.7)	
在校生の最長通 学距離 (km)		住ノ江 2 (0.7)	真栄 2 (1.3)	天神 2 (1.9)	潮見台 3 (1.6、冬 2.4)	築港 12 (1.1)
最寄りのバス停		双葉学園前 (30m) 市立病院前 (80m) 住吉神社前 (290m) 量徳寺前 (300m)	第一ゴム前 (220m)	天満宮下 (340m)	潮見台 (350m)	築港駅前 (680m) 桜町 (900m)
進学する中学校		潮見台中、菁園中	潮見台中、向陽中	向陽中	潮見台中	潮見台中、桜町中
その他						
ブロック内他校と 比較した特記事項		ことばの教室				給食自校実施
		建築後 40 年超				

中学校の概要

各項目の数値は平成 21 年度現在のものです。

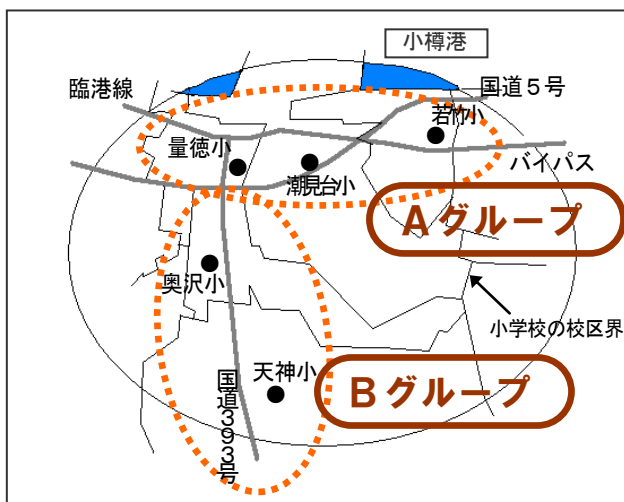
		向陽中学校	潮見台中学校
学校の規模等			
生徒数	通常	167 人	160 人
	特別支援	3 人	3 人
学級数	通常	6 学級	6 学級
	特別支援	2 学級	2 学級
開校年月		昭和 28 年 10 月	昭和 22 年 5 月
学校施設			
現校舎の建築年 (面積)		昭 60 (5164 m ²)	昭 50 (1984 m ²) 昭 51 (1598 m ²)
耐震化優先度 (校舎)			②-1
保有教室の内訳 (普通教室には学級増で転用想定も含む)		普通 15 教室 特別 15 教室	普通 11 教室 特別 10 教室
体育館面積 m ²		1,136 m ²	1,237 m ²
グラウンド実面積 m ²		8,800 m ²	4,800 m ²
通学環境			
隣接校との距離 (km)		菁園中 (2.7) 潮見台中 (3.3)	桜町中 (1.4) 菁園中 (2.4) 向陽中 (3.3)
在校生の最長通 学距離 (km)		天神 2 (1.6)	奥沢 1 (1.5)
最寄りのバス停		天満宮下 (530m)	潮見台 (460m)
校区の小学校		奥沢小、天神小	量徳小、奥沢小、 潮見台小、若竹小
その他			
ブロック内他校と 比較した特記事項		プール設置	



統合の組合せの考え方

すべての小学校が再編の対象となり、学校再編計画で示したこのブロックの想定学校数は2校です。

ブロック内には5校の小学校がありますので、小学校の再編は、隣接する2校あるいは3校の組合せによる統合となります。地理的な特徴から、北東部と南部のバ



ランスをとって統合校を配置することが望ましいため、東西に伸びる国道5号に沿ったエリア（Aグループ）と奥沢十字街から国道393号に沿ったエリア（Bグループ）の2つの組み合わせとします。

現在の学校配置から、Aグループは量徳小、潮見台小、若竹小の組合せとし、Bグループは奥沢小、天神小の組合せとしながら、それぞれの校区をベースにして新しい通学区域と統合校の位置を検討したプランとパターンを示します。

.....

中学校の再編の考え方は、ブロック内の2校はいずれも小規模校で、27年度推計でも漸減していますので、学校再編計画で示したように、このブロックの2中学校を統合します。

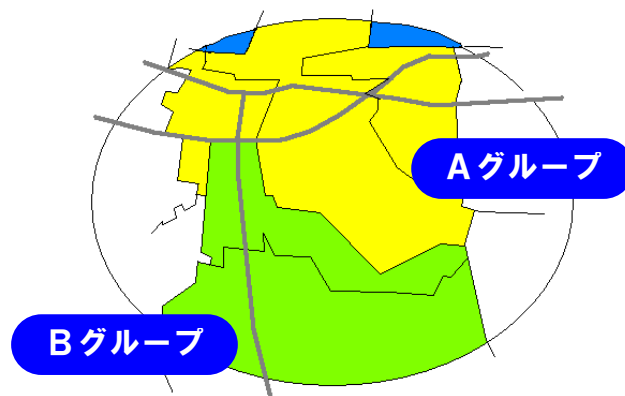
「学校規模・学校配置適正化基本計画」の中で、学校再編成を行うに当たっての考え方を何点か決めていますが、その一つに「小学校と中学校の連携」を視野に入れた通学区域の設定に触れています。

そういうことから、中学校では、この地区の小学校の再編プランと連動した通学区域と統合校の位置を検討したプランとパターンを示します。

小学校のプラン1

現在の校区をもとにした、AグループとBグループの組合せ

組合せグループ	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
Aグループ	量徳小、潮見台小、若竹小の校区全域	現在の量徳小	①
		現在の潮見台小	②
		現在の若竹小	③
Bグループ	奥沢小、天神小の校区全域	現在の奥沢小	④
		現在の天神小	⑤



パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
A ₂₇ -① (量徳小)	436人 13学級	若竹町 35 2.8km	建て替えが必要
A ₂₇ -② (潮見台小)		若竹町 35 1.9km	耐震化工事
A ₂₇ -③ (若竹小)		潮見台 3 2.7km	耐震化工事、大規模改修 または建て替え
B ₂₇ -④ (奥沢小)	288人 12学級	天神 2 3.2km	耐震化工事
B ₂₇ -⑤ (天神小)		真栄 2 2.0km	耐震化工事

プラン1の場合の27年度推計学年別内訳

(人)

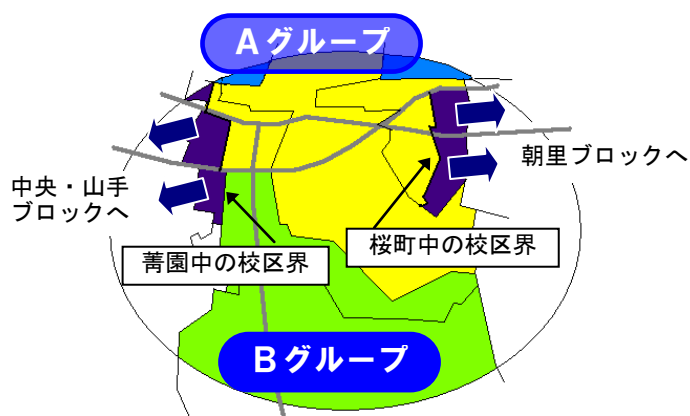
プラン1		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ	児童数	77	67	80	64	80	68	436
	学級数	3	2	2	2	2	2	13
Bグループ	児童数	42	50	45	49	54	48	288
	学級数	2	2	2	2	2	2	12

小学校のプラン2

現在の中学校の校区をもとにして、量徳小校区のうち菁園中校区と若竹小校区のうち桜町中校区を隣接ブロックに分割した形で、AグループとBグループの組合せ

組合せグループ	新しい通学区域	隣接ブロックに編入	統合校の位置	パターン
Aグループ	・量徳小校区のうち 潮見台中校区	菁園中校区は 花園小	現在の量徳小	⑥
	・潮見台小の校区全域		現在の潮見台小	⑦
	・若竹小校区のうち 潮見台中校区	桜町中校区は 桜小	※このプラン2では、現在の若竹小の場所は、新しい通学区域の外に立地していますので統合校になりません。	
Bグループ (プラン1と同じ)	奥沢小、天神小の校区全域		現在の奥沢小	④
			現在の天神小	⑤

パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
A _{グループ} -⑥ (量徳小)	276人 11学級	若竹町 27 2.2km	建て替えが必要 (プラン1のパターン①と同じ)
A _{グループ} -⑦ (潮見台小)		潮見台 3 2.2km	
		潮見台 3 1.6km	耐震化工事 (プラン1のパターン②と同じ)



プラン2の場合の27年度推計学年別内訳 (人)

プラン2		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ	児童数	50	45	49	40	51	41	276
	学級数	2	2	2	1	2	2	11
Bグループ (プラン1と同じ)	児童数	42	50	45	49	54	48	288
	学級数	2	2	2	2	2	2	12

参考

隣接ブロック関係校の27年度推計の学年別内訳 (人)

編入関係校		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
花園小学校	児童数	57	46	49	44	51	50	297
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
桜小学校	児童数	81	75	75	91	68	93	483
	学級数	3	3	2	3	2	3	16

○上表は、プラン2・Aグループの隣接ブロック関係校の内訳で、花園小と桜小校区変更を想定しない場合で作成したものです。

○現在の量徳小学校校区から花園小学校に通う場合の最長通学距離は1.3km(住吉町3)です。

○現在の若竹小学校校区から桜小学校に通う場合の最長通学距離は1.3km(若竹町12)です。

中学校のプラン1

現在の両校の校区をもとにした場合の新しい通学区域
(小学校のプラン2に対応)

	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
統合新校	向陽中、潮見台中の校区全域	現在の向陽中	①
		現在の潮見台中	②

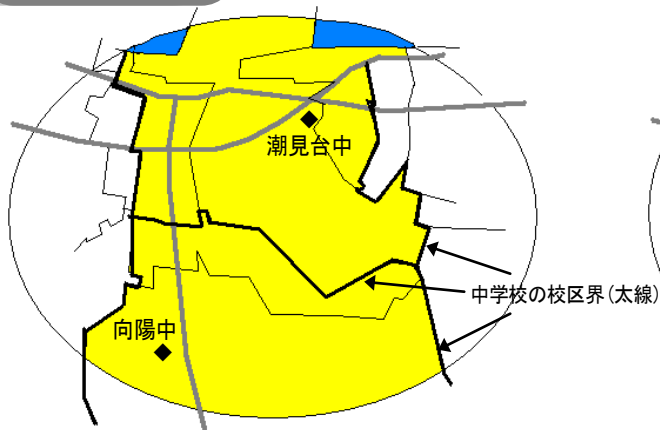
パターン	27年度生徒数と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
① (向陽中)	295人 9学級	築港12 4.1km	
② (潮見台中)		天神2 4.7km	耐震化工事

プラン1の場合の27年度推計学年別内訳

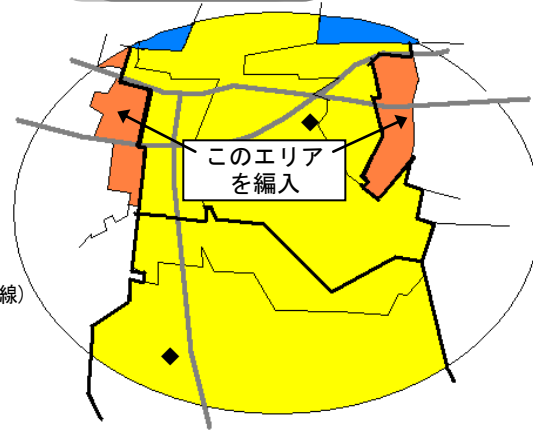
(人)

プラン1		1年	2年	3年	計
統合新校	生徒数	100	110	85	295
	学級数	3	3	3	9

プラン1



プラン2 (10ページ)



中学校の プラン2

現在のブロック内の小学校の校区をもとにした通学区域（小学校のプラン1に対応）

※ブロック東側に隣接する桜町中校区のうち若竹小校区のエリアとブロック西側に隣接する菁園中校区のうち量徳小校区のエリアを統合新校の通学区域に編入

	新しい通学区域		統合校の位置	パターン
統合新校	ブロック内	・ 向陽中、潮見台中の校区全域	現在の向陽中	③
	隣接ブロックから編入	・ 桜町中校区のうち 若竹小校区 ・ 菁園中校区のうち 量徳小校区	現在の潮見台中	④

パターン	27年度生徒数と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
③ (向陽中)	388人 12学級	築港12 4.1km	
④ (潮見台中)		天神2 4.7km	耐震化工事、増築工事

プラン2の場合の27年度推計学年別内訳

(人)

プラン2		1年	2年	3年	計
統合新校	生徒数	130	133	125	388
	学級数	4	4	4	12

プランとパターンから見た場合の小学校の検討結果

- ◆ プラン 1 は、現在の校区に変更を加えないことを主眼に、ブロック内での再編を検討したものです。
- ◆ プラン 2 は、中学校の校区を主眼に考えた、隣接するブロックも含めた再編を検討したものです。

小学校の A グループ（量徳小・潮見台小・若竹小）

学校規模等からの検討（H27）	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラン 1 では、児童数 436 人、学級数は 1 年生が 3 学級、その他の学年はすべて 2 学級の 13 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 33.5 人。 ・ プラン 2 では、児童数 276 人、学級数は 4 年生が 1 学級、その他の学年はすべて 2 学級の 11 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 25.1 人。 ・ プラン 2 は、量徳小と若竹小の校区の一部が隣接する花園小、桜小の校区となります。その場合、花園小の児童数は 297 人、学年すべて 2 学級の 12 学級となります。1 学級当たりの平均人数は 24.8 人。桜小は 483 人、全学年 2～3 学級の 16 学級で 1 学級当たりの平均人数は 30.2 人。
通学距離からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の最長通学距離は、量徳小 0.7km、潮見台小 1.6km（冬季 2.4km）、若竹小 1.1km となっています。 ・ プラン 1、プラン 2 とも、統合校の位置を量徳小または若竹小とした場合の最長通学距離（最遠地点からの距離）は 2km を超え、潮見台小の位置とした場合は、プラン 1 で 1.9km、プラン 2 では 1.6 km となります。
施設面からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 量徳小学校は、校舎の半分と体育館は築 35 年程度で、残りの校舎半分は築 49 年を経過しています。そのため校舎は建て替えが必要となっています。また、すべての棟が耐震基準を満たしていません。 ・ 潮見台小学校は、築 30 年程度で、校舎の約半分と体育館は耐震基準を満たしています。 ・ 若竹小学校は、校舎、体育館とも築 38 年（校舎の一部は築 30 年）ですから、数年のうちには建て替えが必要となります。また、すべての棟が耐震基準を満たしていません。さらに、普通教室は 10 教室で再編後の教室を確保できません。 ・ グラウンド面積は、量徳小 4,500 m²、潮見台小 3,500 m²、若竹小 3,000 m²です。

- ◆ 以上の検討結果から、Aグループの統合校の位置は、プラン1、プラン2のいずれも、現在の潮見台小学校の校舎を改修して使用することが適切です。



小学校のBグループ（奥沢小・天神小）

プラン1とプラン2のBグループは、共通のプランです。

学校規模等 からの検討 (H27)	<ul style="list-style-type: none"> ・ プランでは、児童数 288 人、学年すべて 2 学級の 12 学級となります。なお、1 学級当たりの平均人数は 24.0 人。
通学距離からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の最長通学距離は、奥沢小 1.3km、天神小 1.9km となっています。 ・ プランでは、統合校の位置を奥沢小、天神小いずれの場合も最長通学距離（最遠地点からの距離）は 2km を超えます。そのため、いずれの学校も、「通学距離が 2km でバス路線利用区間が 1km 以上」の要件で対象となる通学費助成制度が適用されます。
施設面からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奥沢小は、校舎と体育館は建築後 34 年程度経過しています。また、耐震基準を満たしていません。 ・ 天神小は、校舎と体育館は建築後 31 年経過しています。また、耐震基準を満たしていません。 ・ グラウンド面積は、奥沢小 3,600 m²、天神小 3,000 m²です。

- ◆ 以上の検討結果から、Bグループの統合校の位置は、奥沢小と天神小の2つのパターンで大きな相違は認められませんが、天神町の人口減少と校地内の利用可能な面積比較（奥沢小＝約 9,700 m²、天神小＝約 8,100 m²）、さらに降雪期の通学安全を含めた立地条件という点を加えれば、将来的にも現在の奥沢小学校の校舎を改修して使用することが適切です。

プランとパターンから見た場合の中学校の検討結果

- ◆ 中学校のプラン 1 は、現在の中学校の校区に変更を加えていないもので、プラン 2 は、小学校の校区を基本に考えているものです。統合校の位置をどこにするかによって、①～④までのパターンを検討しています。
- ◆ このブロックでは小学校が 2 校に再編されますが、5 ページの「統合の組合せの考え方」で触れたように、小学校のプランに合わせ、その選択されたプランと重なる校区設定が望ましいと考えますが、2 つのプランの概要を比較すると下表のようになります。

	プラン 1	プラン 2
学校規模等からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数 295 人で、各学年 3 学級の計 9 学級となります。 ・ 1 学級当たりの平均人数は 32.8 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数 388 人で、各学年 4 学級の計 12 学級となります。 ・ 1 学級当たりの平均人数は 32.3 人 ・ 潮見台中は保有教室数から増築必要
通学距離からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合校の位置を向陽中とした場合の最長通学距離は 4.1km ・ 統合校の位置を潮見台中とした場合の最長通学距離は 4.7km 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合校の位置を向陽中とした場合の最長通学距離は 4.1km ・ 統合校の位置を潮見台中とした場合の最長通学距離は 4.7km
施設面からの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 向陽中は昭和 60 年建築で、耐震基準を満たしています。また、プールが設置されています。 ・ 潮見台中の校舎は昭和 50、51 年建築で耐震補強工事が必要ですが、平成 4 年建築の体育館は耐震基準を満たしています。 	

- ◆ 小学校の校舎を統合校に活用すること（校種転換）については、小学校の再編プランから検討の対象と考えられる校舎は、このブロック内では天神小と若竹小ですが、いずれも有効敷地面積、立地場所から、パターン①～④より優位性は認められないため採用していません。

- ◆ 以上の検討結果から、中学校の統合校の位置は、現時点では向陽中学校校舎の方が学校施設面からは優位ですが、生徒の居住分布を考慮した通学利便性も含めた総合的な観点から、プラン 1 及びプラン 2 において現在の潮見台中学校校舎の必要な改修を行いながら利用することが適切です。その際には、現在の向陽中学校方面からはバスによる通学となります。

このブロックは、隣接する「中央・山手地区ブロック」、「朝里地区」の校区変更を伴いますので、両ブロックの学校再編との調整が必要です。

参考 小学校のプラン2（7、8ページ）のAグループ隣接ブロック関係校の概要

各項目の数值は 平成 21 年度現在		花園小学校	桜小学校
		中央・山手地区ブロック	朝里地区ブロック
学校の規模等			
児童数	通常	188 人	491 人
	特別	7 人	5 人
学級数	通常	6 学級	17 学級
	特別	3 学級	3 学級
開校年月		明治 36 年 6 月	明治 10 年 1 月
学校施設			
現校舎の建築年 (面積)		昭 52(1314 m ²)	昭 41(407 m ²)、昭 42(264 m ²)
		昭 54(2946 m ²)	昭 49(612 m ²)、昭 54(2088 m ²)
			昭 55(1837 m ²)
耐震化優先度 (校舎)		③-1	S41, 42, 49~22 年度耐震工事実施 S54~④-1、S55~③-2
保有教室の内訳 (普通教室には学級 増で転用想定も含む)		普通 16 教室	普通 21 教室
		特別 9 教室	特別 8 教室
体育館面積 m ²		756 m ²	932 m ²
グラウンド実面積 m ²		3,500 m ²	7,200 m ² (うち桜公園利用 6,300 m ²)
通学環境			
隣接校との距離 (km)		稲穂小 (0.9)、緑小 (0.9) 量徳小 (1.3)、入船小 (1.6)	若竹小 (1.3)、望洋台小 (1.4) 朝里小 (2.6)
最長通学距離 (km)		相生町 2 (1.1)	桜 3 (1.6)
最寄りのバス停		花園公園通 (470m)	弥生通 (350m)
進学する中学校		菁園中	桜町中

